

小杉山円満寺 令和六年 新春号

寺だより

辰

謹賀新年

おめでとうございます。新年の気分も束の間、元日に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

地震・雷火事・親父…という言葉は、災害の最たるものを冗談めかして笑い飛ばさうとしたものでしょう。最近では、セクハラやパワハラという言葉がたたく造られているように、親父がもたらす被害も冗談ではなくなってきましたが…。とはいえやはり地震こそ、人間がどうすることもできない災害の筆頭といえるでしょう。とりわけこの三十年の間に、阪神淡路、東日本、熊本、そして能登と繰り返される地震の脅威は、日本ならぬといえます。

また、羽田の飛行機事故も、地震がもたらした二次的な災難です。乗客と乗務員の冷静な対処のお陰で人的被害の拡大は免れましたが、一歩間違えれば、大惨事となるところでした。いざというときの心構えの大切さを教わりました。

一方で、突然やってくる災難や事故にあっては、いれまて学んできた様々な教訓も、中々生

かせるものではありません。機内でドアが開くのを待っている間に、炎が機体を包んでいたら為す術はなかったでしょう。映像では、「神さま、神さま」と祈る人もいました。

そもそも元も子もないことに、気を付けていてもやがては病にかかり、死に至ります。人間も自然の一部である限り、この自然の営みからは逃れようがなく、人生は自分ではどうしようもないことだらけです。だからこそ、日々の工夫や努力とは別に、私たちは祈ります。自然そのものに対して、宇宙そのものに対して。

しかし、世の中を生きている人は、いつまでもそのような悲運を想定して生きているわけにはいきません。悪い事が起きる心配ばかりしては、心の病にかかってしまうでしょう。だからこそ反対に、心の健康を保つためには、うまく忘れることが大切になってきます。

そこでうまく忘れるために、事故や病などの災難に対する心配や不安は、お寺や神棚に置いてきてしまいましょう。あとは忘れて、日常の生活へ邁進してしまえばよいのです。

だからこそ祈るときは祈るばかりです。日常ではなかなか思いもよらない大きなものへと思いを馳せるのです。そして、自分自身もその大きなものの一部であると、何度でも思い返してください。生きていくことのほんとは、私たちがの意思を超えています。このことは、誰もが分かっている当然の事実、日ごと忘れている現実の真相です。よくよくで

とを超えた、人生のあり様に立ち返る場所、時間をもつこと。お寺が開かれる由縁には様々ありますが、そのあらゆる願いの根底には、このようないふがあるのだと知っていただければ幸いです。

今年辰年、当山開山400年、そして私は七回目の年男となりました。まず個人的にはラジカセットで健康維持に努めながら、円満寺が祈りの場として活気づくよう、開山記念行事を企画しているところです。皆様のご来山を心よりお待ちしております。

寒修行再開のお知らせ

本年より、円満寺伝統の寒修行を再開いたしました。寒修行は毎年一月の小寒の日より始まり、江戸時代から続く円満寺の行事です。

昨今は宗教というものに対する目が厳しくなっています。今日まで続けることができません。のび、みなさまの「信心」と「理解のおかげです。心から感謝申し上げます。皆様からの御厚志は、茅屋根の補修などに充当しております。

寒行では弘法大師空海に帰依することによるご利益を説いた詞をお唱えしています。先人の遺教を仰ぐことや先祖さまの遺徳を偲ぶことそれらの行為の根底には、「法」というものへの崇敬があります。法とは確かなものであり、どこでもいっしょにこの宇宙において誰もが持っているもの、費かれているものです。人は人生を通して、そのような「法」というものを、それぞれの仕方



で、自分のものになっていきます。その意味で、誰もが求法者であり、修行者です。自分はそのような法を見つけてきたらどうか。寒修行はそのことを問い直す機会の一つとなっています。

お渡ししている紙札は、仏壇や神棚、玄関などに見栄え良くお貼りください。

節分星まつり祈禱

二月二日(土)

午後二時 歓喜天堂

護摩祈禱・法話・豆まき・福引

◎ 祈願料

・星まつりお守 二五〇円

・星まつりお札 二〇〇〇円

五〇〇〇円

一〇〇〇〇円 など

※祈願札の祈禱料を改訂いたしましたので、ご注意ください。初縁日も同様です。

※申し込み書にご記入の上、ファックス・郵送、またはお寺にご持参ください。

※市外、県外からの方は、お守とお札の配送も承ります。



星まつり

とは

古来、人は星の位置によって事の吉凶を占ってきました。現代に伝わる真言宗においては、

運勢を司る星を祭り、供養することによって、祈願者の息災を祈ります。星を供養することから、星供とも呼ばれます。田満寺を建立した

戸沢藩の家紋は九曜の紋(右下)であり、九曜の紋は一年ごとの運勢を司る当年星とい

う九つの星を太陽の周りに配した紋様です。そのため田満寺にとっても星祭りは重要な

行事の一つです。

節分は旧暦の年越しにあたるため、その節分に、新年の吉祥息災を祈って星祭りを

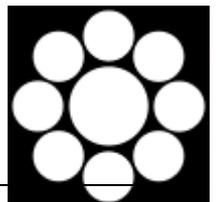
行うことが多いです。お寺によつては、年末や一月に行つこともあります。

節分において豆まきを行うのは、宮中の行事であった鬼を払う追儺式の名残であるとい

う説があります。星供も豆まきも、災難や邪気を払つたことをその目的

としています。年が変わる重要な節目には、無事息災を祈

ることは、今も昔も変わりません。



歓喜天の初縁日

縁日

二月十八日(日)

歓喜天堂

護摩祈禱

正午十一時

午後二時

おさいご

午後六時

初縁日の護摩祈禱は、例年二月の第三日曜日に執り行います。夜はお柴燈を行いますので、古いお札やお守りなどをお持ちください。

また例年通り、新国亭のおそばと、お茶の繁田園さんが出店いたします。

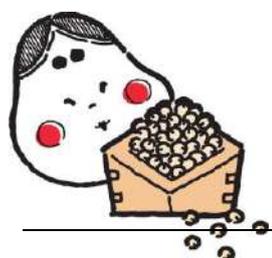
縁日は本尊の吉祥日として、この日に祈禱や祭事を行うことが、何よりも吉祥であるとされる日です。また、多くの方々と一緒にお祈りを捧

げることで、諸縁が益々田満となるといわれます。お札などを頼まれない方でも、ご祈禱には

参列できますので、ご家族での参詣をお待ちしております。

歓喜天と利益について

歓喜天は聖天とも呼ばれ、象の頭と人の体をしたインド由来の神さまが仏教に取り入れられたものとされています。歓喜天は他の神さまよりもとくに諸願成就に優れるとされ、全



国的に熱心な信仰の対象となってきました。

一方で、昔の逸話では、歡喜天さんは七代の福を一代に集めてしまったため、あまり求めすぎると後代の子孫が苦勞するということのように言われたりもします。我利我欲にとらわれた願えばかりではいけないよという言い伝えです。

一この世の財は有限です。私有したものが大きくなる、それを維持するのも大変となります。すでに与えられてきたもの、恩恵を受けてきたものに目を向ければ、すでに利益に溢れていたと気づけるようになります。中々難しいですが…。

心の持ちよう、心の向け方次第といえばつまらないような気がします。抱える問題を解決し、願いを叶える根本は最終的には心を知ることなのだ、仏教では説かれます。

のぼり旗

奉納のご案内

お願い事を込めたのぼり旗を奉納し、一層のご加護をお祈りしませんか。



のぼり旗の種類と最たる利益

- 大聖歡喜天 — 開運・所願成就
- 大聖不動明王 — 息災・厄除け・先祖供養
- 十一面觀音菩薩 — 子宝・安産・良縁
- 南無大師遍照金剛 — 息災・厄除け・安全
- 南無虚空藏菩薩 — 学業・智恵

子育て地蔵尊 — 子育て
稻荷大明神 — 豊作・商売

「奉納いただいたのぼり旗に、「願い事」「名前」を書いて、護摩祈祷の後、境内に掲げます。

△期間△奉納日よりおよそ一年間
△奉納料△一本一五〇〇円

お申し込みは年中受け付けております。

願い護摩木

奉納のご案内

円満寺では毎月一日と十七日に護摩祈祷を行っています。護摩祈祷とは、智慧を象徴する炎をあげ、そこに良い香りのする供物を投じること、本尊さまを供養し、祈りを捧げる真言宗に伝わる修行法です。その炎にくべる護摩木に願い事と氏名を書いて「奉納ください」と、護摩祈祷の際に一緒にくべて、お焚き上げします。護摩木は歡喜天堂にあります。



奉納料 一本一〇〇円

火伏御幣

ひぶせごへい



節分と初縁日の護摩祈祷において、火の用心、火難除けの願いをこめた火伏御幣を加持いたします。台所や玄関などの高く清浄な場所にお飾りください。

△志納料 一体三〇〇円

円満寺の恒例年間行事

- 一月一日 初詣
- 一月小寒 寒修行
- 二月三日 節分星祭り
- 二月 第三日曜 初縁日祈祷・御柴灯
- 四月 八日 花まつり
- 五月 第二日曜 青葉祭り
- 七月 第四日曜 夏祭り・花火大会
- 十一月一三日 大黒天祭り

各行事の詳細は、寺だよりなどで都度ご案内いたします。本年は円満寺開山四〇〇年を記念して、この他にも行事を企画しております。

円満寺の月並み行事

・護摩祈祷

毎月一日 朝七時

十七日 朝七時・午前十時

・写経会(付 般若心経を学ぶ会)

毎月十七日 午前十時半・午後一時

・心経会

毎月二十一日 夜七時

令和六年

円満寺開山 四百年記念

令和六年、円満寺は戸沢藩の祈願所として建立されてから四百年となります。これを記念して、本年から来年にかけて、春の稚児行列や夏のビアガーデン、関東への参拝旅行、さらに万灯会や真言宗に伝わる声明法要など、様々な行事を企画しております。ご協力とご参詣のほど心よりお待ちしております。

新庄聖天 円満寺

〒996-0001 新庄市五日町五九一四

電話 0233 (22) 0433 Fax (32) 0166

令和六年一月十五日発行 発行人 山尾瑛紀